

平成 28 年度第 3 回鹿児島市交通事業経営審議会 会議概要

○ 日程・場所・出席者

(日 程) 平成 28 年 10 月 17 日 (月) 10:00~11:30

(場 所) 交通局 3 階 第 2 会議室

(出席委員) 委員 6 名

(事 務 局) 交通局総合企画課

○ 議事・配付資料

- (議 事)
- (1) 第二次鹿児島市交通事業経営健全化計画 (素案)【案】について
 - (2) 平成 27 年度鹿児島市交通事業特別会計決算
 - (3) 経営健全化計画における平成 27 年度目標効果額の達成状況
 - (4) 交通事業経営健全化計画重点取組項目等の平成 28 年度上半期実施状況

- (配付資料)
- 資料① 第二次鹿児島市交通事業経営健全化計画 (素案)【案】
 - 資料② 第 2 回経営審議会での意見による原案の変更に係る新旧対照表
 - 資料③ 平成 27 年度鹿児島市交通事業特別会計決算
 - 資料④ 平成 27 年度目標効果額の達成状況
 - (参考資料) 鹿児島市交通事業経営健全化計画重点取組項目等の平成 27 年度実施状況
 - 資料⑤ 委託販売店等におけるオリジナルグッズの販売状況
 - 資料⑥ 鹿児島市交通事業経営健全化計画重点取組項目等の平成 28 年度上半期実施状況

○ 協議の概要

(1) 第二次鹿児島市交通事業経営健全化計画（素案）【案】

委員の主な意見・質疑等	
1	<p>「本市交通事業を取り巻く環境」についてであるが、人口減等のマイナス面についてのみ記載されている。大河ドラマ効果等による観光客増などを一つのチャンス、プラス面として記載してはどうか。</p> <p>定住人口は減少していく中で、交流人口が増えてきているということの一つのビジネスチャンスととらえて取り組むことは有効である と考える。交流人口の推移等を示すことはできないか。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>27年度を見ると、宿泊観光客数、外国人観光客数も増えてきているようである。観光交流局等で情報を持っていると思われるので対応 したい。</p>
2	<p>先日の南日本新聞に、鹿児島中央駅のバスターミナルが分かりにくいという意見が乗っていた。交通局だけではなく、県バス協会や他 のバス事業者等も含めて検討しなくてはならないことである。</p> <p>また、協議の場にJRを含めることはできないか。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>協議の場は、バス事業のあり方を検討する場と位置付けられることを考えると、JRを含めることは想定していないのではないかと思わ れる。ただし、このような意見があるということは、当然、協議の場に対して伝えることになる。</p> <p>中央駅のバスターミナルについては、他の民間事業者等と共通の問題認識をもって取り組んでいくべき事項であると考え。今のバス 停施設をそのまま利用して、分かりやすくしようとすると、スペースの上で制約が生じる。</p>

委員の主な意見・質疑等	
3	<p>今、鹿児島中央駅のバス停が分かりづらいということであったが、鹿児島駅前のバス停も3か所もあり、分かりにくいと感じた。</p> <p>素案のP11「エ. 鹿児島駅前電停の整備」において、鹿児島駅前の電停を整備することが記載されているが、バス停の整備も含めることはできないか。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>鹿児島駅前バスターミナルについては、市の建設局において整備に向けて取り組んでいるところである。交通事業の計画であることから、電停の整備についてのみ盛り込んでいる。</p> <p>鹿児島駅前の整備においては、駅前広場を整備し、そこにバースと呼ばれるバス停留所を4か所設置するという事を聞いている。</p> <p>駅前広場整備が完了後は、現在、市役所前が終点となっているバス路線を何本かは鹿児島駅前広場に乗り入れるなどの拡充も出来るのではないかと考えているところである。</p>
4	<p>P12「イ. 共同運行解消の検討」においては、共同運行している路線を「譲渡する」というような表現はできないのか。</p> <p>また、「②ア. 利用実態に合わせたダイヤの検討」では、より具体的な表現はできないか。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>「イ. 共同運行解消の検討」は、共同運行をしている相手方との協議が必要な事柄であり、現時点ではこのことについて方針が確定していないことから、共同運行の解消を検討するとしているところである。</p> <p>「②ア. 利用実態に合わせたダイヤの検討」については、現段階で、例えば「便数を増やす」というような具体的な対応は決まっておらず、今後、利用者ニーズを聞くことなどによりダイヤ編成を行っていく。</p>

(2) 平成27年度鹿児島市交通事業特別会計決算

委員の主な意見・質疑等	
1	<p>23年ぶりに経常収支が黒字になったということであるが、今説明を受けて我々は理解できたが、報道等をみていたりすると、土地の売却により黒字になったというように一般的に受け取られるような気がする。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>土地の売却益は経常収益に含まれないものであるため、今回の経常収支の黒字には影響を与えるものではない。ただ、それを強調しすぎると、28年度以降27年度同様、経常収支の黒字が続くものと思われる可能性がある。27年度経常収支の黒字は、財政構造は変わらない中、燃料費の減により生まれたものであるといっても過言ではない。約150万円の黒字が発生したところであるが、燃料費の減が昨年度ベースで3,000万円、予算ベースで4,500万円の減となっている。もちろん、軌道事業の収入増など局内部の努力による効果もあるが、燃料費という対外的な要因によるところが大きいと考えられる。また、28年度からは、リニューアル事業の減価償却費も発生することになる。</p>
2	<p>健全化計画における収支見通しと決算との比較について、減価償却費が△7,700万円となっているがこれはどういう理由によるものか。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>計画策定時の事業費による減価償却費と26年度までの実施済み事業費の減価償却費との違いによるものであるが、その中でも一番大きな要因は、自動車運送事業における車両更新の繰り越しによるものである。平成26年度更新分の10台が、26年度末までに納車されなかったために、平成27年度の減価償却費に計上されなかったことによる差額が生じたものである。</p>

(3) 経営健全化計画における平成27年度目標効果額の達成状況

委員の主な意見・質疑等	
1	<p>かごでんの利用増加策をワーキンググループで協議しているとのことだが、乗車料金をあげて、例えばかるかんなど鹿児島を代表するものを提供するなどの方法もあるのではないか。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>現在は、かごでんに乗車したまま、交通局の車両基地に入庫し、施設見学を行うなど、交通局ならではの利用のしかたなどを検討しているところであるが、ご意見のような利用のしかたも一つのヒントとして参考にしたい。</p>

(4) 交通事業経営健全化計画重点取組項目等の平成27年度上半期実施状況

委員の主な意見・質疑等	
1	<p>定期観光バス見直しの検討状況について、出来る範囲で教えていただきたい。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>定期観光バスの運行コースとカゴシマシティビューの運行コースが重複している部分が多いため、運行コース等を検討することが必要なのではないかと考えているところである。</p>